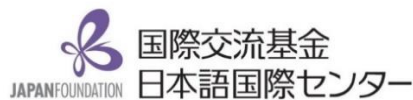


JF 日本語教育スタンダード

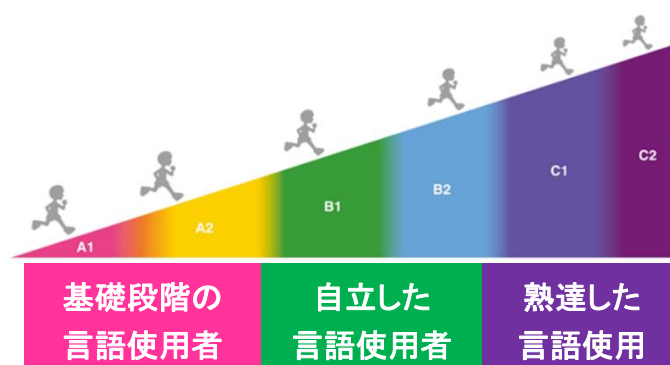
Part 3 6つのレベルと Can-do を理解する

目標：6つのレベルと Can-do の特徴と基本的な機能^{きのう}を理解する



1. 課題遂行能力^{かだいすいこうのうりよく}の6つのレベル

JF スタンダードは、課題遂行能力を6つのレベルで表します。A1、A2 は基礎段階^{きそだんかい}、B1、B2 は自立した言語使用者^{じりつ げんごしようしゃ}、C1、C2 は熟達した言語使用者^{じゆくたつ きょうつう}です。これはCEFRと共通のレベル設定^{せってい}です。課題遂行能力のレベル設定は、「日本語でどんなことがどれぐらいできるか」ということが基準^{きじゆん}になっていることが大きな特徴^{とくちよう}です。そしてそれは、Can-do という能力記述文^{のうりよくきじゆつぶん}で表されています。



6レベルの大まかなイメージは、「CEFRの共通参照レベル^{きょうつうさんしやう}：全体的な尺度^{ぜんたいてき しやくど}」(『利用者ガイドブック』p13)で確認^{かくにん}できます。

〈タスク 1〉 次の文は、全体的な尺度（『利用者のためのガイドブック』p13）にある、「理解する」能力について書かれた Can-do です。よく読んで、どのレベルか考えてください。

A1	A2	B1	B2	C1	C2

1 仕事、学校、娯楽で普段出合うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。

2 具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることもできる。

3 いろいろな種類の高度な内容のかなり長いテキストを理解することができ、含意を把握できる。

4 ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。

5 自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。

6 聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。

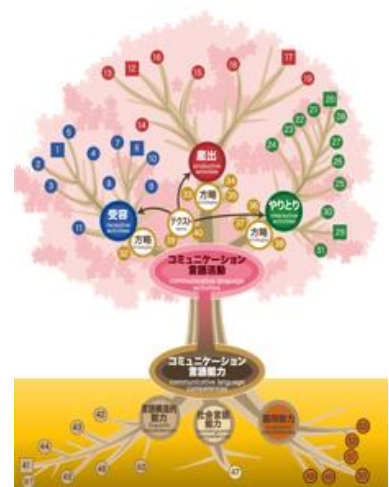
〈タスク 2〉 あなたは自分の日本語運用力について、今までどんなふうに説明していましたか。自分の日本語／外国語の運用力を自己評価表（『利用者のためのガイドブック』p68-p69）を使って、自分でチェックしてみましょう。今までの説明のし方と比べてどうですか。

2. Can-do (能力記述文)

スタンダードの木と Can-do

Can-do は、課題遂行能力、つまり日本語を使ってできることの例を示したもので、スタンダードの木で表されているすべてのカテゴリーにあります。

言語活動の 例示	●活動Can-do 受容（聞く、読む） 産出（一人で話す、書く） やりとり ●テキストCan-do ほうりやく ●方略Can-do
言語能力の 例示	●能力Can-do
53カテゴリー 6レベル	

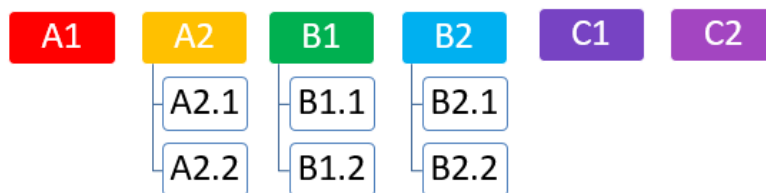


木の枝や花にあたるコミュニケーション言語活動には、^{じゅうよう}受容、^{さんしゅつ}産出、やりとりの「活動Can-do」、「テキストCan-do」、^{ほうりやく}「方略Can-do」の3種類があります。また、木の根にあたるコミュニケーション言語能力には「能力Can-do」があります。Can-doは53のカテゴリー別に6レベルあります。これによって、^{もくひょうせってい}目標設定や^{きょうしつかつどう}教室活動を学習者のレベルに合わせて^{ちようせい}調整したり、また^{ひょうかきじゆん}評価基準の^{さんこう}参考にしたりすることができるわけです。

●Can-do の例

身近な話題について、リハーサルをして、短い基本的なプレゼンテーションができる
産出>講演やプレゼンテーションをする>A2 (A2.1)

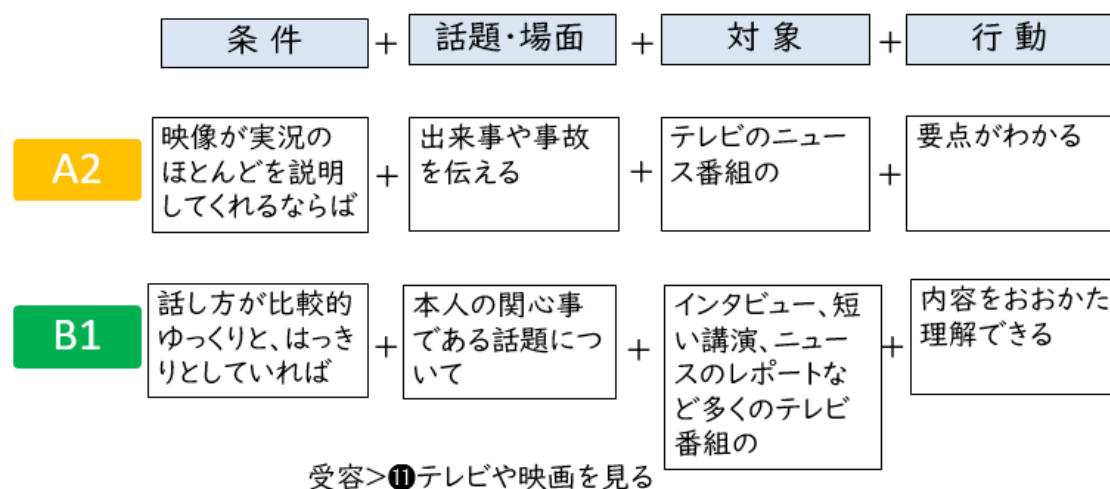
なお、Can-do は6レベルありますが、A2、B1、B2は範囲が広い^{はんい}ため、各々2つの下位^{か い}レベルがあります。



活動 Can-do の構造^{こうぞう}

Can-do の中でも、特に活動 Can-do は、条件^{じょうけん}、話題・場面^{わだい ばめん}、対象^{たいしょう}、行動^{こうどう}という要素^{ようそ}がはっきりしています。これにもとづいて、Can-do をよく読めば、各カテゴリーとレベルの記述^{きじゆつ}の特徴^{とくちょう}が捉えやすくなります。例えば、受容^{とら}でテレビや映画を見るというカテゴリーで A2 と B1 の Can-do を見てみると、次のようになります。

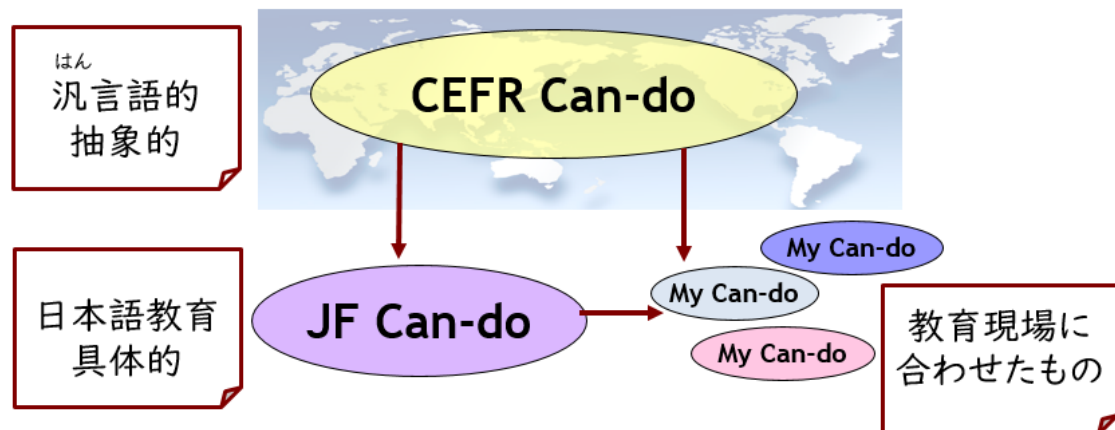
(全レベルの特徴のまとめは、『利用者のためのガイドブック』p72-p77「Can-do のレベル別特徴一覧^{べつとくちょういちらん}」を参照のこと。)



〈タスク 3〉 上の2つの Can-do を、^{ひかく}比較しながらよく見てください。どんなことがわかりますか。



3. CEFRCan-do と JFCan-do



JF スタンダードの Can-do には、CEFR のものをそのまま引用している「CEFRCan-do」と、JF で^{どくじ}独自に^{かいはつ}開発した「JFCan-do」があります。

CEFR は^{とくてい}特定の言語を対象とするのではない、^{はんげんごてき}汎言語的な^{わくぐ}枠組みです。Can-do も

^{こべつ}個別の言語の特性が示されたものではなく、^{ひかくてき}比較的、^{ちゅうしょうど}抽象度の高いものが多いです。

一方、日本語教育現場で使いやすい Can-do として、JF が独自に開発したものが、JFCan-do です。JFCan-do は日本語の使用場面をより^{ぐたいてき}具体的に取り入れています。が、もちろん、カテゴリーやレベルなどを CEFR と共有しています。特にレベルに関しては CEFR とのずれがないように^{けんしょう} 検証^へをしています。

JF スタンダードには、CEFRCan-do と JFCan-do を合わせると全部で 1000 以上の Can-do があります。といっても、人間の言語行動は数えきれないほど^{むすう} 無数にありますから、1000 以上あっても JF スタンダードの Can-do はその一部、^{れいじ} 例示であるということ覚えておいてください。みなさんが求める Can-do が JF スタンダードには見つからないことがあるかもしれませんが、その場合は、先生自ら^{みづか} 教育現場に合わせて、My Can-do を作ってみてください。

〈タスク4〉 JF スタンダードのデータベース「みんなの Can-do サイト」にアクセスして、Can-do を検索してみましょう。

<https://www.jfstandard.jp/ja/cando/top/ja/render.do>



4. Can-do を使う

がくしゅうもくひょう ぜってい
学習目標の設定に使う

Can-do は実際に教育のためにどう使うのか、^{がくしゅうもくひょう ひょうか}学習目標と評価から考えてみましょう。

まず、Can-do は学習目標の設定、特に、^{か だい すいこうのうりよく}課題遂行能力を育てる授業の目標を立てる

上で大切な役割を持っています。例えば、下にある JF スタンダード^{じゅんきょ}準拠のコースブック

『まるごと日本のことばと文化』の学習目標を見てください。

・季節のイベントについて何のためにどんなことをするか話します

A2 やりとり > 情報交換する

・自分の国や町のイベントについてメモを見ながら話します

A2 産出 > 講演やプレゼンテーションをする

『まるごと日本のことばと文化 初級2A2』<かつどう>

トピック5 とくべつな日 > 第10課「いいことがありますように」

ここでは「特別な日」をトピックにした授業で、この目標が示す日本語でのやりとりや簡単な発表ができるようになるために、教室活動を効果的に行っていきます。文法、語彙などももちろん必要ですが、目標はそれを暗記することではなく、あくまでも言語活動であることに注意してください。

JF スタンダードの Can-do は、同じカテゴリーでもレベルの違う Can-do がたくさんあるので、学習者のレベルに合わせた目標設定が可能です。

がくしゅうせい か ひょうか
 学習成果の評価に使う

Can-do を使ってできること、2 つ目は Can-do の学習目標に^{たいおう}対応した評価です。

Can-do の目標は言語活動なので、その評価は言語活動ができるかどうかをみる、パフォーマンス評価になります。そして、パフォーマンス評価には下の例のような評価ルーブリックが必要です。

基準		1 もう少し!	2 できた!	3 すばらしい!
観点				
言語活動	目標Can-do (A2) 季節のイベントについて何のためにどんなことをするか話します		A2	
	語彙の使いこなし			
言語能力	文法の正確さ			
	流ちょうさ			
	社会言語能力			

評価の^{かんてん}観点のうち、いちばん上は、その授業の目標になっている Can-do です。毎回の授業で行う小さい評価では、その日の Can-do ができたかどうかを自己評価してもいいと思います。

ところで、目標 Can-do は言語活動ですから、JF スタンダードの木で言うと、枝や花の部分です。一方、学期末などに行う^{そうかつてきひょうか}総括的評価の場合は、評価の観点に、枝を支える木の根の部分、つまりコミュニケーション言語能力を取り入れるとより効果的な評価ができます。語彙、文法、流ちょうさ、社会言語能力など、目標内容とレベルに合ったコミュニケーション言語能力を選びましょう。

採点基準^{さいてんきじゅん}は、2の「できた!」の部分を目指 Can-do のレベル、ここでは、A2相当^{そうとう}に設定するといいでしょう。

さらに、Can-do が言語活動であることは、学習者にとってもわかりやすく、自律的学習^{じりつてきがくしゅう}活動^{かつどう}に利用できます。例えば、自分で日本語学習の目標設定^{もくひょうせってい}をしたり、自己評価^{じ こ ひょうか}をすることが可能です。目標 Can-do が言語活動で書かれていると、それができたかどうかを自己評価しやすいのです。また、Can-do は数えられるので、いくつできるか、どれくらいできるかを可視化^{かし か}でき、達成感^{たっせいかん}につなげやすいという利点^{りてん}もあります。

〈タスク 5〉 JF 日本語教育スタンダード準拠教材『まるごと日本のことばと文化』

初級2A2<かつどう>について、次のものを見てみましょう。

・内容一覧（目標 Can-do が書いてあります。） [PDF](#)

・Can-do チェック [PDF](#)

まるごとサイト <https://www.marugoto.jp/go.jp/>

5. まとめ

〈タスク 6〉 JF 日本語教育スタンダードのレベルと Can-do について、()に
適切なことばを選びましょう。

- ・JF スタンダードは課題遂行能力を ①()で^{れいじ}例示する。
- ・Can-do は ②()のレベル、聞く・読む・一人で話す・書く・③()の技能、
53のカテゴリーに分類できる。
- ・Can-do の4つの構成要素である ④()、話題・場面、対象、⑤()をよく
見れば、レベルによってもとめられる能力がちがうことが具体的にわかる。
- ・Can-do には CEFR の Can-do と、JF が日本語教育用に開発した ⑥()が
ある。
- ・Can-do は^{きょういくげんば}教育現場において、特に ⑦()の設定と学習成果の ⑧()に
活用できる。

- a やりとり b 6 つ c 学習目標 d 評価 e 行動
f 条件 g JFCan-do h Can-do

■このパートの参考文献と参考サイト

- ・JF 日本語教育スタンダードサイト
<https://www.jfstandard.jp/standard/ja/render.do>
- ・『JF 日本語教育スタンダード 【新版】利用者のためのガイドブック』
<https://www.jfstandard.jp/publicdata/ja/render.do>
- ・みんなの Can-do サイト
<https://www.jfstandard.jp/cando/top/ja/render.do>
- ・『まるごと 日本のことばと文化』サイト <https://www.marugoto.jp/>

■Part3 タスクの答え

〈タスク 1〉

A1	A2	B1	B2	C1	C2
2	4	1	5	3	6

〈タスク 3〉

話題・場面と対象：A2 は「出来事や事故を伝える」「テレビのニュース番組」で限定的だが、B1 は自分の好きなテーマを選び、いろいろな形式の番組を見ることがわかる。

条件と行動：A2 は映像、視覚的補助の助けを得て要点がわかるということ、B1 は話し方が比較的ゆっくり、はっきりしていればという条件のもと、言語情報を通して内容がおおかた理解できるというレベルであることがわかる。

〈タスク 6〉

① h ② b ③ a ④ f ⑤ e ⑥ g ⑦ c ⑧ d